

2009年12月12日

環境大臣
小沢銳仁 様

京都議定書を踏まえた合意を

小沢大臣の地球温暖化問題に対する取り組みに、心から敬意を表します。

ここコペンハーゲンで開かれている COP15/CMP5 は、第1週目が終わりに近づき、交渉は山場を迎えてます。ところが昨日から今日にかけての日本政府交渉団の発言が世界の市民社会の失望を招いております。そして本日、世界の環境NGOから贈られた「本日の化石賞」が、コペンハーゲンに到着された小沢大臣をお迎えする結果になつてしましました。

昨日以来、日本政府交渉団は、気候変動枠組み条約の特別作業部会（AWG-LCA）と京都議定書の特別作業部会（AWG-KP）の両方の作業部会、およびCOPの全体総会などの場面において、京都議定書の改正議論のみが先行することに強い反対を示しました。その発言の表現は必要以上に強く、京都議定書の目標の改正という、議定書によって求められている作業自体に反対しているという印象を与える内容でした。

条約作業部会の議長草案について、京都議定書との関係を明示しているパラグラフを削らない限り、これをベースに交渉を進めることにも反対するなど、交渉の前進を阻む結果になっています。これでは前政権と違いがなく、25%削減の中期目標を発表して政権交代を印象付けた鳩山政権の本会議へのリーダーシップに疑問が芽生え始めています。

京都議定書は、12年前の12月11日に採択されました。AWG-LCA議長のクタヤール氏は昨日の会議でそのことに言及し、京都議定書の12歳の誕生日を祝福しました。世界に誇る古都「京都」の名前を冠した議定書を生んだ国である日本が、京都議定書を結果的に葬り去ることは、日本はもちろん世界の市民が落胆し、非難することは避けられません。

日本がこうした強硬姿勢を続けていくことは、コペンハーゲンでの合意を日本が危うくすることになります。大臣におかれましては、鳩山首相が参加される首脳級会合までに、日本の交渉姿勢に柔軟性を持たせ、「京都議定書を踏まえたコペンハーゲン合意」を目指して交渉に臨まれますよう、心よりお願ひ申し上げます。

気候ネットワーク
地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）
環境政策エネルギー研究所
FoE Japan
WWF ジャパン
Office Ecologist